

靴の歴史散歩 ⑨⑨

皮革産業資料館 副館長 稲川 實

今から8、9年ほど前になろうか、銀座ヨシノヤの矢代会長から「私どものご先祖さまともいふべき、トモエヤさんのお店の絵を、銀座サエグサ（三枝進）さんがお持ちで、そのコピーも頂戴しているので、ぜひお立ち寄りを」という電話をいただいた。ありがたい電話に興味津々、さっそく蔵前の本社に伺ったことはいうまでもない。

そこで見せていただいたのが、ここに掲載の相場真吉、**鞆絵屋の銅版画**（タテ18.5cm×ヨコ38.5cm）である。（写真参照）もちろん業界にとっても未知の資料だが、個人蔵ということもあって、つい、紹介する機を逸してしまった、というのも事実である。

今回、矢代裕夫専務の尽力で、三枝さんにもお会いでき、掲載許可もいただけたから、大変ありがたかった。三枝さんは、銀座の老舗のご当主というだけでなく、銀座研究の第一人者としても知られる方なので、お会いできた、そのことだけでもうれしかった。

さて、業界未知の新資料、鞆絵屋の銅版画を見てみたい。発行年は不明だが、左手前の道路に、軌道を走る馬車鉄道が描かれているから、これの開業年明治15年（1882）と、相場真吉の没年、明治33年（1900）を考え合わせれば、明治15年から明治33年の間に、発行されたものと読みとれる。幸い手元に、明治30年頃に発行された鞆絵屋の商品型録があり、それに銅版画と同じ佇まいの本店写真があったので、見比べていただこうと併載してみた。写真左手の洋品店の看板が、大きくなって以外、まったく変わらないので、発行年は、明治20

年代後期で、落ち付くのではなかろうか。

今回の銅版画も、明治を旅するためのルーペだけは手放せない。向って左端の白壁土蔵造りの店舗は、店先に高々と看板の傘を吊るしているから、当然のこと洋傘店である。三軒並んだ黒壁土蔵造りの店舗は、左から洋品小物店、真ん中が鞆店、右端が靴店である。旧態の商家が、時代の流れで撤退するたびに、買収拡張を重ねたのであろう、奥行ある堂々たる店構えである。それにしてもこれが、今から100年ちょっと前の、京橋一丁目中央通りの姿かと思うと、なんとも不思議な気がしてならない。

